

言語活動の充実を図る国語科指導の実践①

－ねらいに応じた多様な言語活動の具体化－

言語活動を具体化するには、以下のことに留意しながら、どのような言語活動を取り入れることが効果的かを検討することが大切である。

- 学校や児童の実態に応じて、様々な言語活動を工夫し、その充実を図っていくことが重要である
- 示された言語活動例のすべてを行わなければならないものではなく、それ以外の言語活動を取り上げることも考えられる。

同じ単元・教材でも学習のねらいによって様々な言語活動を工夫することができる。以下、第4学年の教材「春のうた」の学習で言語活動を取り入れた二つの案を示す。

A 案

1 単元名 群読で詩を楽しもう

2 教材名 春のうた

3 単元の計画

(1) 単元の目標

国語への関心・意欲・態度	・ 擬声語の表現やリズムを楽しみ、声に出して詩を読もうとしている。
読む能力	・ 春の様子や喜ぶかえるの様子を思い浮かべ、「春のうた」を読んでいる。 ・ 言葉のリズムを工夫して、声に出して読んでいる。
言語についての知識・理解・技能	・ 詩に用いられている繰り返しや擬声語、述語省略（体言止め）など、詩の表現技法とその効果について理解している。

(2) 単元の学習課題

冬眠から覚めたかえるの様子が伝わるようにグループで群読しよう。

(3) 指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	1 「春のうた」を読み、感想を述べ合う。 2 詩の特徴を話し合う。	・ 擬声語、擬態語、繰り返しなどの特徴について確認する。
2	1 各グループで作品を再度読み、どのように読むかを話し合う。 2 群読の練習をする。	・ 各グループで様子を想像させ、自由に群読の計画を立てさせる。
3	・ それぞれの群読となぜそのように読んだかを発表し合い、読みを深める。	・ それぞれの読みのよさを認め合い、群読の楽しさを味わわせる。
4	・ 前時の学習を生かして、再度、読み方を工夫し、発表し合う。	

4 本時（2／4）

(1) 本時の目標

冬眠から覚めたかえるの様子を想像し、グループで群読台本を作ることができる。

(2) 実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 前時の学習を振り返る。 2 学習のめあてを立てる。 かえるの様子を想像して、どのようにグループ読み（群読）をしたらよいか考えよう。 3 学習方法を確認する。	5	- かえるの冬眠について、お互いに知っていることなどを交流させる。 - 群読，グループ読み（群読）台本の作り方を説明する。（参考資料参照）
展開	4 グループで詩を読み，感想を出し合う。 5 どのようにグループ読み（群読）をしたらよいか話し合い，台本を作る。 (1) 読み分ち (2) 読み担い * 一人，複数，男女別など (3) 強弱，間，緩急など	25	- グループでの話し合いの前に，それぞれがどのような読みをするかという考えをもたせてから話し合いをさせる。 - 読み取りの結果が生きるように，群読の工夫の効果について確認する。
終末	6 グループで話し合ったことを基に，グループ読み（群読）を練習する。 7 学習のまとめ ・自分たちがなぜそのような読み方をしたのかを説明できるようにまとめる。	15	- できるだけ読む声が混ざらないように，練習の場を工夫する。 - 理由が説明できるように，発表の仕方について確認する。

B案

1 単元名 わたしだけの「春のうた」を創作しよう

2 教材名 春のうた

3 単元の計画

(1) 単元の目標

国語への関心・意欲・態度	・ 擬声語の表現やリズムを楽しみ，声に出して詩を読もうとしている。
書く力	・ 「春のうた」を模倣し，擬声語・擬態語・感嘆詞を工夫して詩を書くことができる。
読む能力	- 春の様子や喜ぶかえるの様子を思い浮かべ，「春のうた」を繰り返し読んでいる。 - 言葉のリズムを工夫して，声に出して読んでいる。
言語についての知識・理解・技能	・ 詩に用いられている繰り返しや擬声語，述語省略（体言止め）など，詩の表現技法とその効果について理解している。

(2) 単元の学習課題

音や様子を表す言葉などを工夫して、わたしだけの「春のうた」を創作しよう

(3) 指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	1 「春のうた」を音読し、鑑賞する。	・ 春の様子を五感を通して感じ取っていることをおさえる。 ・ 春の様子を、擬声語、擬態語、感嘆詞を工夫して表現していることをおさえる。
2・3	2 「春のうた」をモデルに詩を作る。 (1) 「春のうた」を音読し詩の構成を知る。 (2) わたしだけの「春のうた」を作る。 ・ 学級全員で ・ 各自で (3) 挿絵を添えて清書する。	・ 「春のうた」の詩の構成を知り、擬声語、擬態語、感嘆詞を工夫して表現の仕方に気づかせる。 ・ ワークシートの活用。 ・ 詩の作者名も工夫させる。
4	3 作品発表会をする。	・ クラスで互いの作品のよさを味わいながら発表会をする。

4 本時（2／3）

(1) 本時の目標

教材の詩の構成を知り、音や様子を表す言葉などを工夫して、それぞれの「春のうた」を創作することができる。

(2) 実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 前時の学習を振り返る。 2 学習のめあてを立てる。 春のよろこびを生き物になって詩に表そう。 3 学習方法を確認する。	5	・ 前時の学習を想起して、春の喜びを表すにふさわしいと思う動物を想像させる。
展開	4 「春のうた」を音読し、詩の構成について考える。 5 わたしだけの「春のうた」を作る。 (1) みんなで (2) 自分で	25	・ 繰り返している言葉、音や様子を表す言葉に注目させる。 ・ ワークシートを用意し、焦点化して作らせる。
終末	6 自分で作った詩をグループで交流する。 7 学習のまとめをする。 8 次時の学習の確認をする。	15	・ それぞれの「春のよろこび」がどのように伝わったかという点を中心に評価し合う。 ・ 次時は挿絵を添えて清書することを知らせる。

* B案は、光村図書「光村チャンネル わたしの実践」を参考にして作成しています。

【参考資料】

〔朗読譜の例〕『声を届ける 音読・朗読・群読の授業』（高橋俊三 三省堂 2008）から

1	2	3	4
間 句読点のないところの間 読点のところの間 句点のところの間 段落と段落の間でも気をつけて取る間 場面や論理の大きな展開を表現するための長い間	強弱 だんだん強く読む 強く読む だんだん弱く読む 弱く読む	緩急 プロミネンス 他の部分に比べて特に速く読む 他の部分に比べて特にゆっくり読む	イントネーション 平らに読む 下げて読む 上げて読む うねるように読む 弾むように読む

朗読譜（朗読台本）の記号にきまりはないので、各学校で、使いやすい記号を決めるとよい。発達の段階に応じて、学校で統一していくと学年や学級が変わっても対応できる。

群読譜（群読台本）を作る場合は、左の記号に加えて、「読み担い」（だれが読むか）が分かるようにするとよい。

例 （全員）（二人）（女全）（男全）（語り手）など